

CommandCenter Secure Gateway

CC-SG 仮想アプライアンスおよび Imgrd ライセンス サーバ管理クイック セットアップ ガイド

このクイック セットアップ ガイドでは、CommandCenter Secure Gateway のインストール方法と設定方法について説明します。このインストールには、仮想アプライアンスおよび Imgrd ライセンス サーバ マネージャが含まれます。

CommandCenter Secure Gateway の詳細については、『CommandCenter Secure Gateway ユーザ ガイド』を参照してください。このユーザ ガイドは、Raritan Web サイトの Firmware and Documentation [ファームウェアおよびマニュアル] セクション (<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>) からダウンロードできます。

要件

1. CommandCenter Secure Gateway 仮想アプライアンス版を配備する ESX/ESXi 4.0/4.1
 - 空き領域 40GB 以上のデータストアが必要
 - 利用可能なメモリ 2GB が必要
 - サーバに物理 NIC が 2 枚必要 (ESX/ESXi ネットワーキングでは、これを “vmnic” と呼びます。)
 - 共有ストレージにアクセスできる高可用クラスを推奨
2. vSphere Client 4.0/4.1 を実行するクライアント コンピュータ
3. Flexera™ FlexNet Publisher® ライセンス サーバおよびサポートされている OS をホストする Windows または Linux の物理サーバ。専用サーバは不要です。Raritan では、仮想マシンでライセンス サーバ マネージャを**実行できません**。詳細については、『FlexNet Publisher License Administration Guide』の「Selecting a License Server Machine」(ライセンス サーバ マシンの選択) を参照してください。

Flexera の Imgrd ライセンス サーバ マネージャのは、次の環境でサポートされています。

- Windows Server 2008、Windows Server 2003、Windows XP Professional with SP3、Windows Vista (Ultimate)、Windows 7 (Ultimate) の Windows 32-bit (x86)
- Red Hat Enterprise Linux 4.0 および 5.0 上の Linux 32-bit Linux Standard Base (LSB) 3.0 認定 x86
- Raritan は、Flexera FlexNet Publisher ライセンス サーバ マネージャのバージョン 11.8 をサポートし、提供していません。

Raritan によって実施されたテストの結果、次のプロセッサ/OS の組み合わせが推奨されます。

- Intel Pentium 4 と Windows XP
- Intel Pentium D と Windows Vista
- Intel Celeron と Windows 2003 Server
- AMD Opteron と Windows 2003 Server
- AMD Opteron と Windows 2003 Server

- AMD Opteron と Windows 7
- AMD Opteron と Windows 2008 Server
- AMD Athlon 64 と Windows Vista

Raritan によって実施されたテストの結果、次のプロセッサ/OS の組み合わせは推奨されません。

- Intel Xeon と Windows 2003 Server
- Intel Xeon と Windows 2003 Server
- Intel Pentium 3 と Windows 2003 Server

4. 仮想アプライアンスの .OVF ファイル、Raritan ベンダ デーモン ファイル、および Flexera ライセンス サーバ マネージャ ファイル
(<http://www.raritan.com/support/commandcenter-secure-gateway> の次のリンクで入手可能です)。詳細は、「**インストール ファイルをダウンロードする**」『1p.』を参照してください。

- **CommandCenter Secure Gateway 仮想アプライアンス版**のリンク: このリンクを表示するには、Raritan ソフトウェア ライセンス キー管理のサイトにログインする必要があります。「**ライセンスを取得する**」『3p.』を参照してください。
- **Flexera License Manager & Raritan Vendor Daemon Files** リンク

インストール ファイルをダウンロードする

全インストール ファイルのセットは、<http://www.raritan.com/support/CommandCenter-Secure-Gateway/> から入手できます。[CommandCenter Secure Gateway Virtual Appliance] リンクからアクセスしてください。

このリンクでファイルにアクセスするには、Raritan ソフトウェア ライセンス キー管理にログインする必要があります。詳細については、「**ライセンスを取得する**」『3p.』を参照してください。

サイズの問題で .OVF ファイルのダウンロードを希望しない顧客には、.OVF ファイルを製品 DVD でお送りします。DVD には Flexera ファイルまたはベンダ デーモン ファイルは含まれていないので、これらは Web サイトからダウンロードする必要があります。

注: Linux と Windows の両方、および lmadm と lmgrd の各ライセンス サーバ マネージャの両方の、必要ファイルが含まれていますが、本書の手順では、インストールごとに必要なファイルを示しています。該当しないファイルは無視してもかまいません。

インストール ファイルは 2 つの .ZIP ファイルに収められています。ファイル名の <release number> の部分には、実際の CC-SG リリース番号が入ります。

vccsg_rel<release number>_ovf.ZIP ファイルには以下が含まれています。

- 仮想アプライアンス版の配備に使用される .OVF ファイル
- flexserver-11.8-raritan.ZIP ファイルには以下が含まれています。
- Linux および Windows 用の Raritan ベンダ デーモンおよびユーティリティ
 - Linux および Windows 用 Flexera™ FlexNet Publisher® ライセンス サーバ マネージャ
 - Linux: lmadm インストール バイナリ、lmgrd、および lmutil
 - Windows: lmadm インストール実行ファイル、lmgrd、lmttools、および lmutil

Linux または Windows サーバにライセンスサーバソフトウェアをインストールする

CommandCenter Secure Gateway 仮想アプライアンス版を使用するには、Flexera™ FlexNet Publisher® ライセンス サーバ ソフトウェアを物理サーバにインストールしておく必要があります。Raritan では、仮想マシンでライセンス サーバ マネージャを**実行できません**。

サポートされているサーバについては、「要件『1p. 』」を参照してください。

[Flexera License Manager & Raritan Vendor Daemon] リンクからダウンロードした flexserver11.8.zip ファイルを解凍すると作成される flexserver11.8 サブディレクトリには、インストールに使用する 2 つのファイルが含まれています。

- flexserverv11.8-linux.tar.gz
 - raritan-linux32-1.1.zip
1. Linux のサーバにログインします。
 2. システムに *flex* というユーザを追加します。
 3. *flex* としてログインし、端末を開きます。
 4. flexserverv11.8-linux.tar.gz および raritan-linux32-1.1.zip ファイルを home/flex にコピーします。
 5. コンテンツを同じ場所に解凍します。

```
tar -xvzf flexserverv11.8-linux.tar.gz
```

ファイルのパッケージが解凍されます。以下のディレクトリが作成されます。
 - flexserverv11.8
 - flexserverv11.8 の下に i86_lsb が作成されます。

6. raritan-linux32-1.1.zip ファイルを home/flex に解凍します。この zip ファイルには、Raritan ベンダ デーモン ファイルが含まれています。

```
unzip raritan-linux32-1.1.zip
```

7. Raritan ベンダ デーモン ファイルを移動し、名前を変更し、lmgrd のインストールに備えます。

```
cp raritan-linux32  
/home/flex/flexserverv11.8/i86_lsb/raritan
```

8. "raritan" ファイルの許可を変更します。

```
chmod +x  
/home/flex/flexserverv11.8/i86_lsb/raritan
```

9. redhat-lsb パッケージをインストールしていることを確認してください。これをインストールするには、root として yum install redhat-lsb を実行します。

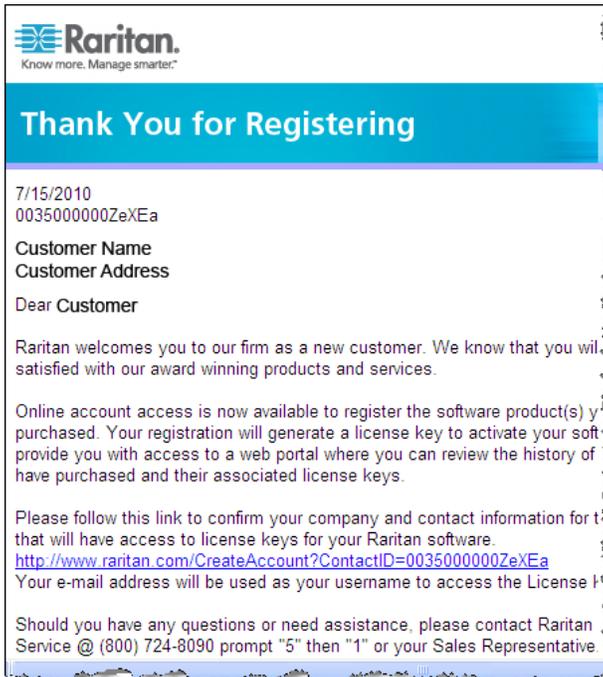
Windows のサーバ

[Flexera License Manager & Raritan Vendor Daemon] リンクからダウンロードした flexserver11.8.zip ファイルを解凍すると作成される flexserver11.8 サブディレクトリには、インストールに使用する 2 つのファイルが含まれています。

- flexserverv11.8-win.zip
 - raritan-win32-1.1.zip
1. flexserverv11.8-win.zip ファイルを Windows のサーバの C:¥ に解凍します。これによって、flexnet-win というフォルダが作成されます。
 2. raritan-win32-1.1.zip を C:¥flexnet-win¥i86_n3¥ に解凍します。

ライセンスを取得する

- 購入時に指定されたライセンス管理者は、送信元電子メールアドレスが `licensing@raritan.com` で、件名が “Thank You for Registering(ご登録ありがとうございます)” という Raritan Licensing Portal(Raritan ライセンス ポータル) からの電子メールを受信します。



- 電子メール内のリンクをクリックして、Raritan の Web サイトのソフトウェア ライセンス キー ログイン ページに移動します。ユーザ アカウントおよびログインを作成します。ユーザ名は自分の電子メール アドレスです。ライセンス アカウント情報ページが開きます。間もなくライセンス ファイルが使用可能になります。
- 送信元電子メール アドレスが `licensing@raritan.com` で、件名が “Your Raritan Commandcenter SG Software License Key is Available(Raritan Commandcenter SG ソフトウェア ライセンス キーが使用可能です)” という Raritan Licensing Portal(Raritan ライセンス ポータル) からのもう 1 通の電子メールを確認してください。



Thank You for Registering

7/15/2010
0035000000ZeXEa

Customer Name
Customer Address

Dear Customer

This is an important email regarding your recent Raritan CommandCenter Sec purchase. Your Software License Key may now be generated. This License required to activate this Software Product.

You can access that license key(s), as well as review the history of Raritan s products that you have purchased with their associated license keys, at our v here - <http://www.raritan.com/licensing>.

- 電子メール内のリンクをクリックして、Raritan の Web サイトのソフトウェア ライセンス キー ログイン ページに移動し、作成されたユーザ アカウントでログインします。
- [Product License(製品ライセンス)] タブをクリックします。購入したライセンスが一覧表示されます。ライセンスが 1 つしか表示されない場合や、複数表示される場合があります。
- 各ライセンスを取得するには、リスト内の項目の横にある [Create(作成)] をクリックします。CCSG128-VA の基本ライセンスと CCL-1024 のアドオン ライセンスなど、ライセンスが 1 つ以上ある場合は、先に基本ライセンスを作成します。
- 初めてライセンスを作成する場合は、[New License Server Deployment(新しいライセンス サーバ配備)] を選択します。複数のライセンス サーバで複数の CC-SG を配備している場合は、[Add to an Existing License Server Deployment(既存のライセンス サーバ配備に追加)] を選択し、このライセンスを追加するライセンス サーバを選択します。
- [Deployment Mode and Path(配備モードおよびパス)] には [Single(単一)] を選択します。[Vendor Daemon Path(ベンダーデーモン パス)] は空白のままにし、[次へ] をクリックします。
- [ホスト名] または [Host IP(ホストの IP)] を選択し、ライセンス サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

注: ライセンス ファイルに記載されている、ライセンス サーバのホスト名を使用する場合は、DNS ルックアップと逆 DNS ルックアップが正しく、ホスト名に対応していることを確認します。アップロードするライセンス ファイルに、完全修飾ドメイン名が記載されていることを確認します。この情報がなければ、CC-SG はライセンス サーバの場所を特定できません。ライセンス サーバ マネージャをホスティングするマシンにも、DNS が正しく設定されている必要があります。

ライセンス ファイルに記載されている、ライセンス サーバの IP アドレスを使用する場合は、ライセンス ファイルに IP アドレスが含まれている場合でも、ライセンス サーバ マネージャは DNS 整合性チェックを実行します。チェックが失敗すると、ライセンス サーバ マネージャはエラーを報告します。

これを修正するには、環境変数 FLEXLM_ANYHOSTNAME を定義し、値を 1 に設定します。FLEXLM_ANYHOSTNAME を定義すると、ライセンス サーバは初回のホスト名チェックを実行しません。

10. ライセンス サーバのホスト ID を入力します。不明な場合は次の手順に従って取得します。ホスト ID は、A005B983-8DFE-D511-A510-00112FCB87F6 のように、文字と数字からなる長い文字列です。
 - ライセンス サーバのホスト ID を取得するには、ライセンス サーバでディレクトリから dmidecode プログラムを実行します。たとえば Linux の場合は、`-s` オプションを使用して、システム情報の UUID 属性に対応する、system-uuid DMI 文字列の値を取得します。お使いの dmidecode バージョンが `-s` オプションをサポートしていない場合は、`dmidecode | grep UUID` を使用して、システム情報の UUID 属性の値の出力を解析します。
 - Linux の場合: `su - root; dmidecode -s system-uuid`
 - Windows の場合: `cd` を使用して `%flexnet-win%86_n3` ディレクトリに移動し、`dmidecode -s system-uuid` を実行します。
11. CC-SG がライセンス サーバとの通信に使用する TCP ポート番号を入力します。デフォルトのポートは 27000 です。ライセンス サーバでファイアウォールが有効になっている場合は、入力するポート番号が開いていることを確認します。必要であれば、後からライセンス ファイルのポート番号を変更することができます。
12. [Create License(ライセンスの作成)] をクリックします。入力した詳細情報がポップアップに表示されます。ホスト ID が正しいことを確認します。

警告: ホスト ID が正しいことを確認してください。不正なホスト ID で作成されたライセンスは、有効ではないので、Raritan のテクニカル サポートに修正してもらう必要があります。
13. [OK] をクリックします。ライセンス ファイルが作成されます。
14. [Download Now(今すぐダウンロード)] をクリックし、ライセンス ファイルを保存します。

ライセンス ファイルをライセンス サーバにコピーする

ライセンス ファイルはライセンス サーバに追加する必要があります。複数のライセンス ファイルがある場合は、テキスト エディタを使用して各ファイルのすべての内容をコピーして 1 つのファイルに貼り付け、それをライセンス サーバに保存します。ファイルに .LIC 拡張子を付けて保存していることを確認してください。

Linux のサーバ

- ライセンス ファイルを `/home/flex/flexserverv11.8/i86_lsb/` にコピーします。

Windows のサーバ

- ライセンス ファイルを `c:\flexnet-win%86_n3%` にコピーします。

ライセンス サーバを起動する

Linux のサーバ

1. lmgrd ユーティリティが格納されたディレクトリに変更します。

```
cd /home/flex/flexserverv11.8/i86_lsb/
```
2. lmgrd を実行してサーバを起動します。サンプル コマンド内の "license-file.lic" は .LIC ファイルのファイル名です。複数のライセンス ファイルがある場合は、コマンドで各ファイル名を **★** で区切って指定する必要があります。コロンで区切ります。次の例を参照してください。

```
./lmgrd -c ./license-file.lic
./lmgrd
-c ./license-file1.lic:license-file2.lic
```

Windows のサーバ

1. Windows cmd.exe シェルを起動します。
2. lmgrd ユーティリティが格納されたディレクトリに変更します。

```
cd c:%flexnet-win%86_n3%
```
3. lmgrd を実行してサーバを起動します。サンプル コマンド内の "license-file.lic" は .LIC ファイルのファイル名です。複数のライセンス ファイルがある場合は、コマンドで各ファイル名を **★** で区切って指定する必要があります。セミコロンで区切ります。次の例を参照してください。

```
lmgrd -z -c license-file.lic
lmgrd -z -c
license-file1.lic;license-file2.lic
```

サービスとして起動

ライセンス サーバ マネージャは、Linux で自動的に起動するよう設定するか、Windows で自動的に開始されるサービスとして設定する必要があります。

詳細については、『Publisher License Administration Guide』を参照してください。

- UNIX プラットフォームでのライセンス サーバ マネージャの起動、自動起動
- Windows でのライセンス サーバ マネージャの起動
- Windows サービスとしてのライセンス サーバ マネージャの設定

CommandCenter Secure Gateway を VMware ESX/ESXi Server 4.0/4.1 にインストールする

1. vSphere 4.0 または 4.1 を使用して、クライアント コンピュータから ESX/ESXi 4.0 または 4.1 に接続します。

- 仮想マシンの作成、開始、停止許可を持つユーザとしてログインします。
- [File(ファイル)] > [Deploy OVF Template(OVF テンプレートの配備)] を選択します。
- [Deploy From File(ファイルから配備)] を選択し、[参照] をクリックしてファイルを解凍したディレクトリに移動します。OVF ファイルを選択します。[次へ] をクリックします。
- 作成される仮想マシンの詳細が表示されます。仮想マシンのデフォルト名は変更可能です。[次へ] をクリックします。
- インベントリの場所を選択します。[次へ] をクリックします。
- CommandCenter Secure Gateway の配備先にするホストを選択します。フェイルオーバー保護のため、高可用クラスタを構成するホストを選択することをお勧めします。[次へ] をクリックします。
- クラスタを選択した場合は、特定のホストを選択します。[次へ] をクリックします。
- すべてのファイルを保存するデータストアを選択します。データストアに 40GB の空き領域があることを確認します。[次へ] をクリックします。

注: データベースの可用性は、適切かつ信頼性の高い操作には欠かすことができません。データストアは、冗長ネットワーク アクセスおよびルーチン バックアップにより、非常に高い可用性を提供します。
- CC-SG が配備されるネットワークを選択します。[次へ] をクリックします。
- サマリーを表示し、[終了] をクリックします。仮想マシンが作成される間、数分待ちます。
- 仮想マシンの電源をオンにします。
- [コンソール] タブを開き、CC-SG の診断コンソールにアクセスします。

診断コンソールにログインし CC-SG IP アドレスを設定する

- admin/raritan* としてログインします。ユーザ名とパスワードは大文字と小文字を区別します。
- 続いてローカル コンソールのパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。
 - デフォルトのパスワード (*raritan*) を再度入力します。
 - 新しいパスワードを入力し、確認します。新しいパスワードは、文字と数字を組み合わせた 8 文字以上の強力なパスワードにする必要があります。
- [Welcome] 画面が表示されたら CTRL+X を押します。
- [Operation] > [Network Interfaces] > [Network Interface Config] を選択します。Administrator Console が表示されます。
- [Configuration] フィールドから、[DHCP] または [Static] を選択します。[Static] を選択した場合、静的 IP アドレスを入力します。必要に応じて、DNS サーバ、ネットマスク、ゲートウェイアドレスを指定します。

- [Save] を選択します。CC-SG が再起動するまで数分待ちます。

CC-SG のデフォルト設定

IP アドレス: 192.168.0.192

サブネット マスク: 255.255.255.0

ユーザ名/パスワード: admin/raritan

CC-SG にログインする

- サポートされているブラウザを起動し、CC-SG の URL 「https://<IP アドレス>/admin」と入力します。

たとえば、「https://192.168.0.192/admin」のように入力します。

注: ブラウザ接続のデフォルトの設定は、HTTPS/SSL 暗号化です。
- セキュリティ警告ウィンドウが表示されたら、接続を受け入れます。
- サポートされていない Java Runtime Environment バージョンを使用すると、警告が表示されます。プロンプトの表示に従って、正しいバージョンをダウンロードするか、続行します。ログインウィンドウが表示されます。
- デフォルトのユーザ名 (*admin*) とパスワード (*raritan*) を入力し、[Login] をクリックします。

CC-SG Admin Client が表示されます。

ライセンスをインストールしてチェックアウトする

- [管理] > [License Management(ライセンス管理)] を選択します。
- [Add License(ライセンスの追加)] をクリックします。
- ライセンス契約を読み、テキスト領域の下までスクロールして、[I Agree(同意する)] チェックボックスをオンにします。
- [参照] をクリックし、仮想アプライアンスの基本ライセンス ファイルを選択します。
- [開く] をクリックします。CC-SG がライセンス サーバと接続され、ライセンスされている機能のリストが取得されます。機能がリストに表示されます。
- CCSG128-VA の基本ライセンスを選択し、[Check-Out(チェックアウト)] をクリックして有効にします。
- アドオン ライセンスを有効にするには、各ライセンスを選択し、[Check-Out(チェックアウト)] をクリックします。

ライセンスについての詳細は、『CC-SG 管理者ガイド』を参照してください。ライセンス サーバの管理の詳細は、Flexera™ FlexNet Publisher® マニュアルを参照してください。『FlexNet Publisher License Administration Guide for FlexNet Publisher Licensing

Toolkit 11.8』は、www.flexera.com の [Support(サポート)] > [Documentation Center(ドキュメンテーション センター)] からダウンロードできます。

その他の情報

CommandCenter Secure Gateway™ および Raritan 製品ラインナップ全体の詳細については、Raritan の Web サイト (www.raritan.com) を参照してください。技術的な問題については、Raritan のテクニカル サポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカル サポート窓口については、Raritan の Web サイトの「Support」セクションにある「Contact Support」ページを参照してください。

Raritan の製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、オープン ソース コードのコピーを要求できます。詳細については、Raritan の Web サイトにある「Open Source Software Statement」(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>) を参照してください。